

成果報告書

(地域部活動推進事業)

登龍中学校・東安中学校 ← 拠点校名等

| | |
|-----------|---|
| 所在地 | 岐阜県安八郡安八町 |
| 運営主体 | 特定非営利活動法人NPO総合体操クラブ |
| 事業目標 | 持続可能な部活動の運営と、教員の負担軽減の両方を実現する。吹奏楽部の休日の部活動へ地域クラブから専門の知識や技術を要する指導者を派遣し、部活の質の向上と教員の負担軽減を実現する。初年度はお試し期間とし、年間5回程程度の地域移行を実施し、保護者や教員へ本事業の趣旨を理解度を高める |
| 団体・組織等の連携 | <pre> graph TD A[安八町教育委員会] --- B[NPO総合体操クラブ] C[東安中学校] --- B D[登龍中学校] --- B E[朝日大学吹奏楽部] --- B F[保護者会] --- B B --- G[登龍中吹奏楽部] B --- H[東安中吹奏楽部] </pre> <p>The diagram illustrates the organizational structure and partnerships. At the center is the 'NPO総合体操クラブ' (NPO General Gymnastics Club) in an orange box. It is connected to the '安八町教育委員会' (Anahara Education Committee) in a blue box above it. To the left, '東安中学校' (Tōan Junior High School) and '朝日大学吹奏楽部' (Asahi University Wind Band) are connected to the NPO club. To the right, '登龍中学校' (Tōryū Junior High School) and '保護者会' (Parents' Association) are connected. Below the NPO club, two boxes represent the school bands: '登龍中吹奏楽部' (Tōryū Junior High School Wind Band) and '東安中吹奏楽部' (Tōan Junior High School Wind Band), both connected to the NPO club.</p> |
| 活動場所 | 登龍中学校音楽室 東安中学校音楽室 |

文化部のみではなく、運動部も含めた部活動の地域移行に関する説明会・アンケート・パイロット事業を行う。教員は指導の場合は地域指導者としてカウントするため時間数は9時間減少。しかしながらコロナの影響で予定回数が出来なかった。

令和3年度 部活動地域移行に関する会議及びパイロット事業 報告

活動概要

| | 日(曜) | 内容 | 場所 |
|----|-----------|-------------------------------|-------------|
| 1 | 4月28日(水) | 安八町小中学校長へNPO総合体操クラブより事業説明 | ハートピア安八 |
| 2 | 5月6日(木) | 町教育委員会・校長会にてNPO体操クラブより詳細説明 | 町中央公民館 |
| 3 | 5月7日(金) | 安八町教育委員の会にてNPO体操クラブより事業説明 | 町中央公民館 |
| 4 | 6月24日(木) | 町教育委員会とNPO体操クラブと詳細打ち合わせ | 町中央公民館 |
| 5 | 7月6日(火) | 第1回地域運動部活動推進会議 | 岐阜県総合教育センター |
| 6 | 7月13日(火) | 地域部活動スタートアップ会議(教員と外部指導者の顔合わせ) | OKB体操アリーナ |
| 7 | 7月26日(月) | 登龍中学校部活動保護者会長会 | 登龍中学校 |
| 8 | 10月4日(月) | アンケート調査内容に関する打ち合わせ | 登龍中学校 |
| 9 | 11月8日(月) | 説明会に向けて打ち合わせ | 町中央公民館 |
| 10 | 11月9日(火) | 部活動担当教員・保護者代表説明会 | 町中央公民館 |
| 11 | 11月12日(金) | 福岡県教育委員会視察対応 | OKB体操アリーナ |
| 12 | 11月16日(火) | 第2回地域運動部活動推進会議 | 長良川スポーツプラザ |
| 13 | 11月27日(土) | 登龍中吹奏楽部パイロット事業① | 登龍中音楽室 |
| 14 | 〃 | 県教育委員会視察対応 | 〃 |
| 15 | 〃 | 東安中吹奏楽部パイロット事業① | 東安中音楽室 |
| 16 | 12月3日(金) | 保護者説明会に関する打ち合わせ | 町中央公民館 |
| 17 | 12月7日(火) | 登龍中学校新入生説明会にて事業説明 | 登龍中学校 |
| 18 | 〃 | 部活動週末地域移行に関する保護者・社会人指導者説明会 | 町中央公民館 |
| 19 | 12月8日(水) | 東安中学校新入生説明会にて事業説明 | 東安中学校 |
| 20 | 12月19日(土) | 登龍中吹奏楽部パイロット事業② | 登龍中音楽室 |
| 21 | 〃 | 東安中吹奏楽部パイロット事業② | 東安中音楽室 |
| 22 | 1月6日(木) | 羽島市教育委員会相談対応 | OKB体操アリーナ |
| 23 | 1月15日(土) | 登龍中吹奏楽部パイロット事業③ | 登龍中音楽室 |
| 24 | 1月27日(木) | 令和3年度の報告と令和4年度の方針について話し合い | 町中央公民館 |
| 25 | 2月24日(木) | 第3回地域運動部活動推進会議 | 岐阜メモリアルセンター |

○本事業による成果

学校部活動地域移行に関するアンケート結果集計報告
及び、パイロット事業報告と考察

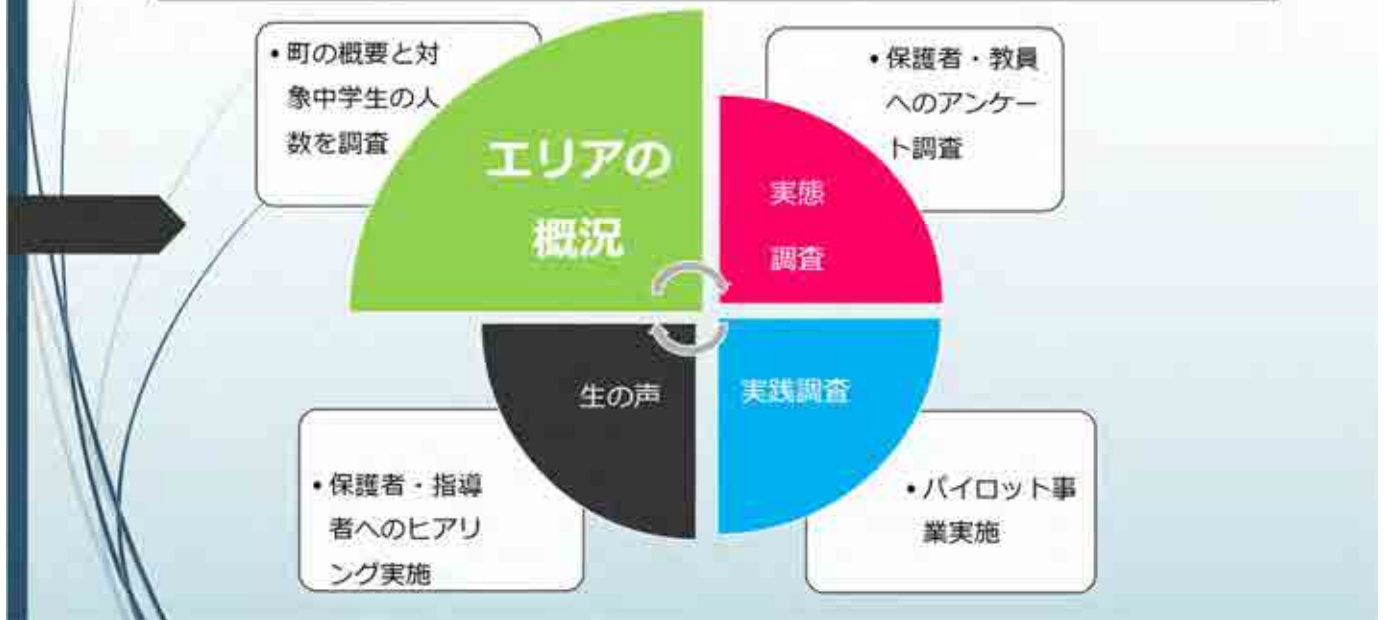


特定非営利活動法人NPO総合体操クラブ

担当 岸田美也子

現状を把握する

⇒まず、実践地区の概要を俯瞰する



対象中学生は2校で約600人だが、1校は隣市との組合立中学校で部活動補助金等隣市との調整も必要になる。



◆岐阜県安八町の概要

人口 : 14,629人 [R3.12.1現在]
世帯数 : 5,489 世帯 [R3.12.1現在]
面積 : 18.16 平方キロメートル

小中学生 : 小学校3校 (824名) 、 **中学校2校 (595名)**

[R3.4.1現在]

最寄り駅 : JR穂積駅又は名鉄新羽島駅 (町内に鉄道の駅なし)



◆安八町立登能中学校

- ・1947年開校
- ・校名は、名森小開校時の校名「登能義校」に由来
- ・名森小学校と牧小学校の児童が進学
- ・生徒数は301名 (2021年4月現在)

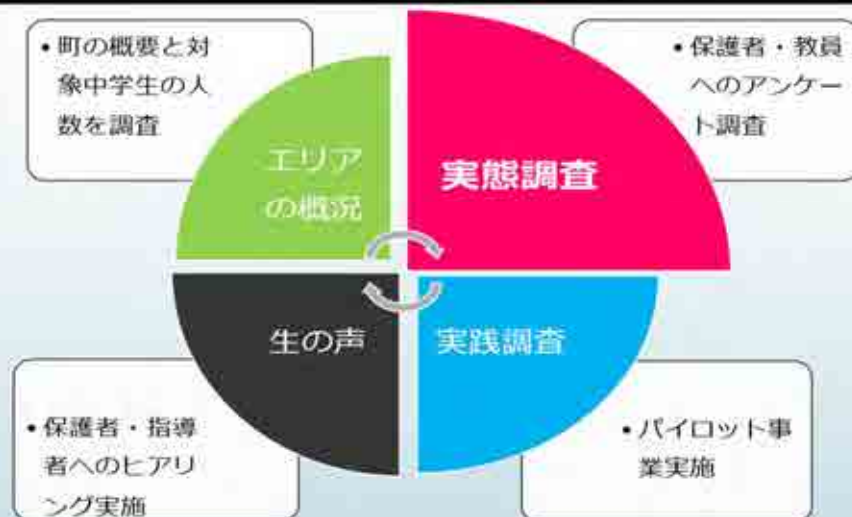


◆大垣市安八郡安八町組合立東安中学校

- ・1947年開校
- ・2006年墨俣町が大垣市に編入され現校名になる
- ・大垣市と安八町による一部事務組合立の中学校 (現在事務局は安八町が担う)
- ・大垣市立墨俣小と安八町立結小学校の児童が進学
- ・生徒数は294名 (2021年4月現在)

現状を把握

⇒400名の保護者・35名の教員、6部活動で実態調査を実施した



部活動の受託に向けた課題を明らかにするために、保護者等に対してアンケートを実施し、クラブ活動自体の試験運営を行った

現状把握のための実態調査（アンケート調査）

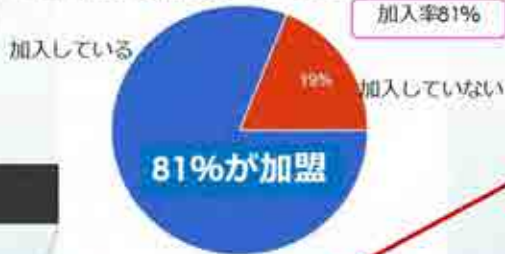
- 対象：町内の2中学校全保護者（400人）2中学校職員全員（35名）
- 期間：令和3年10月4日～10月25日
- 方法：（保護者）学校を通して紙ベースで配布 → 回答はQRコードよりオンラインで回答
- （教員）学校内でエクセルシートに記入 → 部活担当が集約 → 岸田に送る
- 集計：デジタル集計とエクセル集計

有益なシステム構築のための実践調査（パイロット事業）

- 東安中バスケットボール部へプロチーム（岐阜WOOPS）よりスクール担当が指導する（全回）
- 東安中卓球部へ朝日大学体育会卓球部の監督と部員が指導する（全回）
- 登龍中野球部の指導を部活動担当教員が地域指導者として指導する（全回）
- 登龍中サッカー部へ社会人指導者として高校で教えている人材を非営利団体より派遣で指導する（全回）
- 登龍中・東安中の吹奏楽部に県吹奏楽連盟より朝日大学吹奏楽部監督と大学生の派遣で指導する（全回）

部活動に8割の生徒が加入しているが、週末の実施回数が部活動指針より多すぎる部もあることがわかった。

◆部活動に加入していますか



◆土日の活動は月何回参加していますか



【考察】

・選択加入制度になっても8割は部活動に加入しているが、中学校部活動指針では週末活動月4回（5週の月は5回）が原則で、**実施回数月8回が約25%と多い**のはこの機会に是正すべきではないか。

※中学校部活動指針（抜粋）

・休日に部活動を行う場合は、生徒の家庭や地域における活動を保障するよう、**土曜日・日曜日のいずれかを休養日とする**（第3日曜日の「家庭の日」は原則として休養日とする）。
 ・大会や対外試合等で休日に連続して活動する場合は、翌日に休養日进行。

学校部活動費では賄えない部分の保護者負担は種目によって様々である。

◆部費（部活動に関して集めてる金額）はいくらですか？



平均：4,660円

※高額理由
 ・遠征時のバス代
 ・楽譜、楽器運搬
 ・講師謝礼

【考察】

・種目によって徴収金額は違う。
 ・平均して統一金額に設定できるか検討課題となる

・使い道に問題も見られる
 ・保護者が集めている部分は不明との回答もある

◆部費の主な使い道（教員回答）

- ・大会参加費、消耗品、ネット、ボール、滑り止めシート、救急用品、遠征費・試合球
- ・湯茶代、**コーチ昼食代、練習試合手土産**
- ・遠征時のバスなどの支払い及び接待（飲料）
- ・大会や練習試合で生徒に渡す飲み物や軽食
- ・画材、楽譜、楽器付属品、楽器運搬トラック代、P検受験用教材
- ・連盟登録、夜練習の体育館使用料

アンケート分析

財政的にも自立し、持続可能な部活動とする為には、保護者に対して必要経費の内容や金額について十分な理解を深める事が非常に重要である

◆（保護者）週末部活動は有料になりますが講師謝金や消耗品の支払い等も考慮して、部費（参加費）はいくらなら妥当と思われるですか？



※保護者から徴収する部費以外に部活動運営にかかっている費用

- ・教員及び社会人指導者謝金⇒税金
- ・教員及び事務職員が事務業務に携わる人件費⇒ボランティア
- ・消耗品等の購入費用⇒学校部活動運営費

地域移行したらどこまで保護者負担になるのか...

【考察】

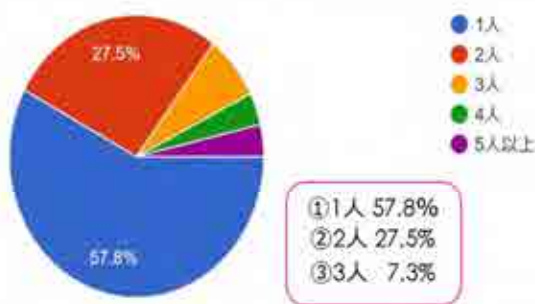
- ・保護者には、目に見えない費用について知らせる必要があると感じる
- ・部活動は「教育の一環」であり、行政や学校が担う部分は大きいのでどこまで公費で費用負担するかによって保護者負担が決められる。

現状は保護者の期待値と部活動運営に必要な金額に乖離があると思われる

アンケート分析

指導者1人での指導が半数以上あるが、危機管理の面や指導内容確認の観点から見ても1人指導は危険である。

◆社会人指導者は何人ですか



◆指導者の人数は適切ですか



【考察】

- ・指導者1人で行っているのが半数以上あり、その危険性を認識できてない保護者も多い。
- ・指導者の確保は難しく、人数を増やしたいが指導者不足で出来ない現状もある

なぜ危険か

- ・怪我・事故・トラブル時の対応が出来ない（他の生徒を見る人がいない）
- ・行き過ぎた指導の監視の目がない（体罰等の抑止の目）
- ・指導者自身の都合で行けない場合もある

アンケート分析

部活動は教育の一環に位置づけられ、教員の関りは必須である。特に指導以外の事務作業に関しては部活動手当のつかないボランティアで行われている。

◆顧問の週末部活参加率

※参加率算出方法

(休日の顧問参加回数) ÷ (休日の部活回数 + 休日の社体回数) × 100 (単位: %)



- ① 100% 11人
- ② 50% 6人
- ③ 30% 1人
- ④ 44% 1人

※複数顧問の部活は交代で出勤の場合有り

◆夜間の活動はありますか

- 週末: なし
- 平日: 7部活あり
- ・登龍中: 女子バレー、剣道、男子バスケ
- ・東安中: 女子バレー、女子バスケ、男子バレー、男子バスケ

※平日夜間は教員が出る義務はないが、出るときは完全ボランティア

【考察】

- ・部活動と名乗る時間は顧問無しでは行えない。当然参加率は高くなる。
- ・種目専門教員は指導の主担当のため100%参加となるが、専門外の教員は複数顧問で交代出勤となっているようである。
- ・活動時間以外の教員の事務業務はボランティアでのかかわりとなる。(活動時間に含まれない)

※顧問(教員)の声

- ・土日及び休日の活動計画及び施設使用の割り振りは、現在は学校の部活動担当が行っている
- ・チーム登録や試合の申込などがあるので、休日の大会参加に関わって、教員の事務作業が発生する。
- ・「中体連主催」と「協会主催の大会」の参加の仕方やエントリー責任者、メンバー決めの決定権など地域指導者に相談しながら決める

アンケート分析

地域指導者として移行後に指導担当を希望する教員は11%しかいない。残りの89%の指導者を確保するのは至難の業ではないか。指導者確保が課題となる。

週末部活動が地域クラブへ移行した場合

◆(教員) 移行後に地域指導者として指導しますか

◆(保護者) 地域移行されたら参加しますか



【考察】

- ・移行後に地域の指導者として引き続き指導に携わるとい教員は35人中4人しかいない。移行後31人分の穴は埋められるのか。
- ・保護者の回答「わからない」が半数を占めている事から、この事業の全体像を根気よく説明する必要があることがわかる。



保護者も教員も期待より不安が大きいと感じる。両者の不安要素を洗いだし、課題解決の糸口を探すことも地域移行への準備段階となる

保護者・教員の地域移行に関する質問・要望（記述式部分）

◆保護者より

- ・指導者の質を上げて欲しい（有料ならば質のいい指導者を）
- ・保護者の負担を減らしてほしい（具体的に何が負担かは不明瞭）
- ・有料になること（会費の額）、部費の額が心配
- ・平日と週末の指導の連携は大丈夫か
- ・今のままがいい（教員が引き続き指導等を行う）
- ・社会人コーチや団体が試合の申込や参加料との事務を担ってもらえるか
- ・3年生の扱い（半年だけで終わるのに会費がいるか）

◆教員より

- ・部室、部費の管理は大丈夫か（第3者が管理するのは不安）
- ・進める方向で保護者の理解を得て欲しい
- ・日程調整等は誰がするのか、保護者にお願いしたい。
- ・トラブル等の責任の明確化をお願いする
- ・地域指導者が見つからない場合はどうするのか（教員が担うのか）
- ・保護者の負担を少なくしてほしい

※記述式全回答は巻末のAppendix(補足資料)に掲載

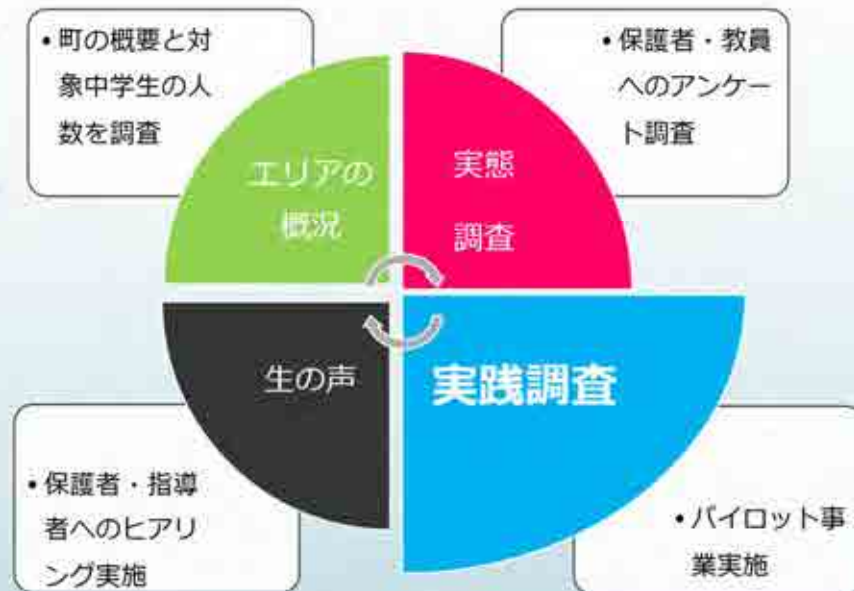
アンケート分析から地域移行への課題が見えてきた。解決に向けて学校・行政・保護者そして運営主体となる団体とよく協議することが重要である。

◆見えてきた課題とは

- 1、週末部活動活動日の設定⇒学校や指導者との日程調整と会場確保
- 2、中学校部指針の回数と現実の回数が乖離している⇒指針に順守する方向で検討
- 3、運営主体はどこが担うのか⇒民間団体へ委託するには金銭的な負担が心配
- 4、保護者のいう「負担軽減」とは何が負担なのか⇒当番回数や部費だと推測する
- 5、教員が地域の指導者として指導しない状態での問題点
 - ・社会人指導者確保⇒現在の社会人指導者だけでは教員の穴は埋まらない
 - ・学校施設及び部室の管理⇒校舎内や部室へ教員以外の外部者で管理可能か
- 6、平日と週末の指導者連携をどうするか⇒教員が社会人指導者と指導内容等共有するシステム作りが大事になる
- 7、3年生の扱いはどうなるか⇒基本的に地域クラブに引退はない

現状を把握

⇒5種目6部活を抽出し、指導者の属性を変えながら実践する



実践5：吹奏楽部、吹奏楽連盟より指導者と大学吹奏楽部員による指導の場合（専門教員がいる学校といない学校の2校で比較する）



実践校：登龍中学校
(顧問は専門外)

実践校：東安中学校
(顧問が専門指導者)

指導者：岐阜県吹奏楽連盟理事長・朝日大学体育会吹奏楽部
和田隆明監督、吹奏楽部部員

検証結果

- ◆良かった点
 - ・大学生が各パートリーダーで少人数指導ができ、全体指導も基礎から学べて良かった
- ◆課題となる点
 - ・専門教員がいる場合は単発指導でも構わないが、居ない学校にとっては、別途指導者を手配しなくてはならない。



コンクール前など集中した時間を取らないといけないので日程や時間確保が難しい

パイロット事業から、指導者確保が1番難しいことだという課題が見えてきた。

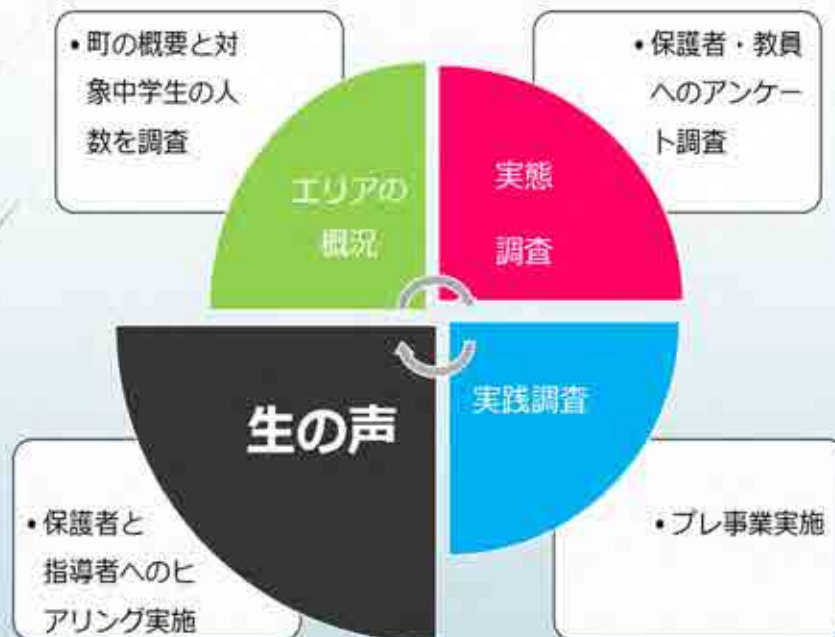
◆見えてきた課題とは

- 1、プロチームから派遣の場合
 - ・チームもジュニアチームの指導や派遣依頼等があり、来れる回数が制限される。
 - ・今回は補助金で謝金を賄えたが、実際に保護者負担となると難しい
- 2、教員が地域指導者として指導する場合
 - ・教員には移動があるので、その場合指導者不在になる可能性がある
- 3、他団体より派遣の場合
 - ・団体との契約ならば可能であるが、指導者が特定の1人ならば難しい
- 4、大学より派遣の場合
 - ・学生の練習時間を削るわけにはいかず、都合の合う時のみという限定的となる

指導内容は満足のものだったが、毎回とはいかないため、指導者確保は課題となる

現状を把握する

⇒保護者や社会人指導者に対してヒアリングを実施



保護者と指導者を分けてヒアリングを実施した。どちらの要望も想定内のものではあったが、理解を得るには時間が必要だということもわかった。

運動部指導者

- ・月4回では強くない
- ・謝金は要らない。保護者から集めたお金を貰う気はないし強制されれば指導者をやめる
- ・教員の種目専科がいたら社会人指導者はやりづらい
- ・技術面は任せてもらって教員は人間性の面で指導してほしい
- ・指導時間以外の会議や遠征はボランティアか

運動部保護者

- ・費用が高くなるのは困る。家庭の事情で部活に入れない子も出てくる
- ・当番等の負担が増える事はやめて欲しい
- ・それほど高いレベルを目指しているわけではない
- ・指導者が見つからないときはどうするのか
- ・土日で部活行かない日は家でゲームなど時間を持て余すのではないか

文化部指導者

- ・練習場所は確保できるのか。現在学校が使えない時は体育館の2階でやっているが環境が悪い
- ・楽器は消耗品も多く、金銭的に負担が大きい
- ・専門指導者が多く必要
- ・薄謝では誰もやらないかもしれない

文化部保護者

- ・吹奏楽は今でも高額だがさらに必要だとやらない人も出る
- ・指導者がいないと出来ない(保護者は指導できない)
- ・平日と休日の指導が違つと生徒が混乱する
 - ・土日にコンクールも多く教師がいないのはかわいそう

保護者も指導者も生徒ファーストで検討することが大事。

○児童・生徒への指導に関する工夫

- ・コロナ禍でのしどうなので、なるべくパートごとに場所を変えたり、話すときはマスク着用。
- ・基礎を繰り返すこと
- ・数少ない指導なので、質問等を多くする

○運営上の工夫

- ・アンケートは直接事務局へ回答が来るように、オンラインで行った。
- ・結果は全てフィードバックした
- ・コロナの関係で、すこしでも人数を少なくするために、大学生のパートリーダーは途中から中止し、和田先生1人の指導とした(学校側の要望)

コロナのまん延防止期間が長く、部活動がほとんど中止となったことで、臨機応変に対応することになった

○継続的な運営に関する課題

1、場所の問題

- ・校舎内の音楽室等を使う場合、セキュリティの問題で教員が不在では不可能である。

2、指導者の問題

- ・今年度指導していただいた朝日大学吹奏楽部の和田先生が、県の吹奏楽連盟の理事長に就任されたことから特定の学校を指導することが不可能となり、次年度からはお願いできなくなった。
- ・パートごとに指導される方々はこれで生計を立てていらっしゃる方もみえて謝金が高額となる

3、教員の問題

- ・教員が地域の指導者として参加することで、教員の勤務時間にカウントされず、表面上は働き方改革の低をなしているように見えるが、実際は教員の過重労働は変わらないので意味がない。
- ・国の方針では、やりたい教員は引き続き地域指導者として指導できるとあるが、指導できる教員がいるところは他の指導者は入らない。しかし、教員は移動することもあり、その場合は指導者不足で部活動が成立しないことになる。

○令和5年度からの学校部活動の段階的な地域移行に関する方針・計画

1、場所の問題

- ・校舎内のセキュリティ問題を解決するために、学校外での活動とする。候補地として、登龍中は「中央公民館大ホール」で、東安中は「結会館」で楽器常駐させて活動ができそうである。これによって、教員が必ず出なければならないという縛りがなくなる。

2、指導者の問題

- ・登龍中は、大垣女子短期大学の佐溝先生にお願いできるが、パートごとの指導者は岐阜交響楽団等からお願いする事になり、保護者負担は高額となる。
- ・東安中は、西川先生が吹奏楽専門の教員であり、移動がない限りは引き続き指導されるが、地域指導者カウントにしたところで過重労働問題は解決されない。

3、教員の問題

- ・学校部活は移動があっても誰かが担当すれば部活動が無くなることはないが、地域に出した場合、指導している教員が移動すればたちまち指導者不在で地域部活は出来なくなる。それを防ぐためにも、教員は勤務校では指導しない、もしくはセカンド指導者となるべきと考える。指導したい教員は、居住地の地域指導者として活躍してもらいたい。

| | |
|--------|--|
| 募集方法 | 学校での通知、PTA総会等での保護者への通知、チラシ作成 |
| 指導者 | 大垣女子短期大 佐溝先生 岐阜交響楽団等による専門指導(パート指導) 教員が地域指導者となって担当 地元愛好家による指導 |
| 移動手段 | 学校からそれほど距離がないので、通常の登下校と同様にする。 保護者送迎もあり。 |
| 活動費用 | クラブ年会費 5,000円＋保険料(1,200円) それに加えて部費を徴収。 指導者数によって金額が決まるが、半期で1万円位になる予定。 施設使用料は減免となる その他、大会等への楽器運搬等は随時徴収 |
| スケジュール | 活動は週末土日のいずれか1回で月4回(中学校部活動指針を順守) 平日も地域へ移行されれば週4回となる(平日3日) |
| 保険加入等 | JSCCスポーツ安心保険(年額1,200円)に加入 楽器運搬時は別途保険加入 |

【活動の様子（写真添付）】

